

## V. 特記事項

### 1. 大学の人的・物的資源の社会への還元

本学及び社会・産業界の教育・研究活動を支える情報資料を提供する機関として、学園は「文化学園服飾博物館」と「文化学園ファッションリソースセンター」を有している。

「文化学園服飾博物館」は日本及び世界の優れた服飾資料を約 20,000 点収集し、年 4 回の企画展を行って公開している。また、研究目的で所蔵資料を特別に観覧することも可能にしており、服飾及び関連分野の研究に利用され、服飾文化の理解と発展に貢献している。

「文化学園ファッションリソースセンター」は、コスチューム、映像、テキスタイルの資料を収集し、繊維素材から最新のトレンド情報まで、デザイン発想を豊かにする情報を提供する機能を備え、服飾の教育研究に貢献している。

### 2. 国際交流

#### <大学院グローバルファッション専修に関する交流>

大学院生活環境学研究科被服学専攻（博士前期課程）グローバルファッション専修（以下「GFC」）は、平成 24(2012)年度より、英語を使用言語として、アートとデザインの観点からファッション研究を行い、修士の学位が取得できるプログラムを行っている。令和 6(2024)年 5 月 1 日現在、外国籍 64 人、日本国籍 4 人が入学しており、留学生の国籍は令和 4(2022)～令和 6(2024)年度において、アメリカ合衆国、欧州（伊、英、仏、スイス）、アジア（中、韓、印、シンガポール、フィリピン等）その他パラグアイ、北マケドニア等となっており、文化の多様性に富んだ研究教育の場となっている。

このプログラムにより修士の学位が取得できる特徴を生かし、海外 2 校と相互の学位が取得できるダブルディグリー協定を締結して、学生交流を行っている。

一校は、フランスの国立高等装飾美術学校（以下「ENSAD」）で、平成 27(2015)年度から実施している。ENSAD は 5 年制の課程において、4 年次の 1 年間を本学の GFC で学修し、所定の単位を取得したのち、ENSAD で 5 年次の修了作品を制作して、本学と ENSAD の両校で評価し双方の学位を取得できる。同じように、本学大学院の学生は、2 年次の 1 年間を ENSAD で学修して双方の学位を取得できる。もう一校は、中国の浙江理工大学で、同様のダブルディグリー協定を平成 26(2014)年に締結して実施している。これまで ENSAD から 11 人を受入れ、本学から 6 人を派遣している。浙江理工大学からは 10 人を受入れているが、本学からの派遣はこれまでのところない。

#### <IFFTI に関する交流>

23 カ国 55 のファッション関連の高等教育機関が参加している国際組織 IFFTI「国際ファッション工科大学連盟 International Foundation of Fashion Technology Institute」に、設立会員校として本学は日本で唯一の正会員校として加盟（平成 11(1999)年度）しており、加盟と同時に現在に至るまで理事校として活動し、平成 21(2009)年度から平成 25(2013)年度の間は会長校を務めた。このように、本学はファッション教育界の国際ネットワークの中で重要な役割を果たしている。毎年開催される IFFTI の年次大会では、ファッション教育界と関連業界の現状と課題等について研究者や業界関係者がグローバルな視点から情報交換を行い、本学の教員も研究発表を行う等、国際的交流と共通理解のために力を注いでいる。